

公開実用 昭和63- 99557

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63- 99557

⑬ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和63年(1988)6月28日

A 47 C 7/74

8608-3B

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 ヒーター組み込みシート

⑯ 実 願 昭61-194027

⑰ 出 願 昭61(1986)12月17日

⑱ 考 案 者	青 木	明	東京都昭島市松原町3丁目2番12号	株式会社タチエス内
⑲ 考 案 者	伊 藤	邦 彦	東京都昭島市松原町3丁目2番12号	株式会社タチエス内
⑳ 出 願 人	株式会社	タチエス	東京都昭島市松原町3丁目2番12号	

明 細 書

1. 考案の名称

ヒーター組み込みシート

2. 実用新案登録請求の範囲

1. クッション部材を備える車両用のシートであって、前記クッション部材をクッション部材本体の裏面に凹部を形成して、この凹部にヒーター部材を備えてなるものとし、前記ヒーター部材を発泡体製部材の上面にヒーターユニットを備えてなるものとし、前記クッション部材本体の凹部に前記ヒーター部材のヒーターユニットを上部として嵌合することにより前記クッション部材を形成してなることを特徴とするヒーター組み込みシート。

2. 前記ヒーター部材を、前記ヒーターユニットを発泡体にかしめ止めすることにより形成してなることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項記載のヒーター組み込みシート。

3. 前記ヒーター部材を、前記ヒーターユニットを発泡体に接着剤又は両面粘着テープを介し

て粘着することにより形成してなることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項記載のヒーター組み込みシート。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は、車両に使用するシートにおいて、シートクッションを形成するクッション部材にヒーターユニットが設けられてなるヒーター組み込みシートに関するものである。

(従来技術)

従来、この種のヒーター組み込みシートは、第7図に示すように、自動車座席のシートクッション(b)はフレーム(a)上にクッション部材(c)が載置され、このクッション部材(c)の表層内に、ヒーターユニット(d)を挿入して形成されるもの、又は、図示を省略するが、クッション部材を被覆する表皮部材に縫い付けることによってヒーターユニットを装着してなるものがある。

(考案が解決しようとする問題点)

しかし、前記従来ヒーター組み込みシート

においては、クッション部材(c)とヒーターユニット(d)とを一体発泡成形すること自体が困難な作業であるとともに、成形熱によりヒーターユニットの温度ヒューズが切れることがある等の問題がある。また、クッション部材を被覆する表皮部材にヒーターユニットを縫い付けるものにおいては、表皮部材の伸びを妨げることとなり、座り心地が悪くなる等の問題がある。

本考案は以上に述べた事情に鑑みなされたもので、その目的は、ヒーターユニットを装着したヒーター部材をクッション部材本体とは別に形成し、クッション部材本体に形成した凹部にヒーター部材を嵌挿することによってクッション部材を形成し、前記従来のシートの問題点を解消することができるヒーター組み込みシートを提供することにある。

(問題点を解決するための手段)

本考案におけるヒーター組み込みシートは、クッション部材をクッション部材本体とヒーター部材とを備えてなるものとし、ヒーター部材

を発泡体製部材にヒーターユニットを備えてなるものとし、クッション部材本体とヒーター部材とを嵌合することによりクッション部材を形成してなるものである。

(考案の作用)

本考案におけるヒーター組み込みシートは、クッション部材本体と、発泡体製部材にヒーターユニットを装着してなるヒーター部材とを嵌合することによってクッション部材を形成しているため、製造が容易で、また製造の際にヒーターユニットの温度ヒューズが切れるおそれがないとともに、座り心地が良い等の作用を有するものである。

(実施例)

以下、本考案におけるヒーター組み込みシートの一実施例を第1図から第6図に基づいて説明する。

図面中、自動車座席はシートクッション(1)とシートバック(2)とからなる。このシートクッション(1)及びシートバック(2)は、それぞれ

クッション部材(3)に表皮部材(4)が被覆されてシートクッション本体(5)又はシートバック本体が形成されており、このシートクッション本体(5)はフレーム(6)上に載置して形成されている。前記フレーム(6)には、第6図に示すようにスプリング部材(7)が張架して装着され、それぞれクッション部材(3)を保持しうる構成とされる。

然して、クッション部材(3)には、第2図に示すように、クッション部材本体(8)と後述するヒーター部材(9)とが備えられる。すなわち、クッション部材本体(8)の裏面には、前記ヒーター部材(9)を装着すべく、表面近傍まで達する凹部(10)が形成される。このヒーター部材(9)は、第4図に示すように、軟質性の発泡樹脂によって形成される発泡体製部材(11)の表面に、シート状のヒーターユニット(12)を装着してなるものである。装着手段としては、同図に示すように発泡体製部材(11)の隅角部に形成されるボス(13)をヒーターユニット(1

2)の同様の場所に形成されるボス孔(14)に通してかしめ止め等することによって、又は、第5図に示すように、発泡体製部材(11)の表面に塗布された接着剤(15)又は同表面に貼られた両面粘着テープ(15)を介してヒーターユニット(12)を貼着することも可能である。このヒーターユニット(12)は、シート部材(12a)にヒーター線(12b)をジグザグ状にほぼ全面に挿入し、ヒーター線(12b)の端部にコネクター(12c)を装着してなるものである。そして、第2図に示すように、クッション部材本体(8)に形成された凹部(10)にヒーター部材(9)を、ヒーターユニット(12)が凹部(10)の奥に面するように嵌挿することによって、クッション部材(8)が形成される。なお、コネクター(12c)は車両の電源に連結される。

(考案の効果)

本考案におけるヒーター組み込みシートは以上に述べた通りであるから、以下に述べるような効果を有する。

(1) クッション部材を、クッション部材本体とヒーター部材とを別体のものとして成形し、両者を嵌合してなるものとしたため、ヒーターユニットを一体発泡成形する必要がなく、製作がより容易である。

(2) また、前述のようにヒーター部材を別体に成形し、後に嵌合する構成であるため、ヒーター部材に装着したヒーターユニット単体での交換が可能である。

(3) ヒーターユニットを一体発泡成形することがないため、温度ヒューズが切れるおそれがない。

(4) クッション部材本体とヒーター部材の発泡体との互いの硬度を変えることにより、好みの着座感を備えたシートを容易に作ることができる。

(5) クッション部材の表面には縫目を形成することなく仕上げることができ、外観をきれいにすることができる。

4. 図面の簡単な説明

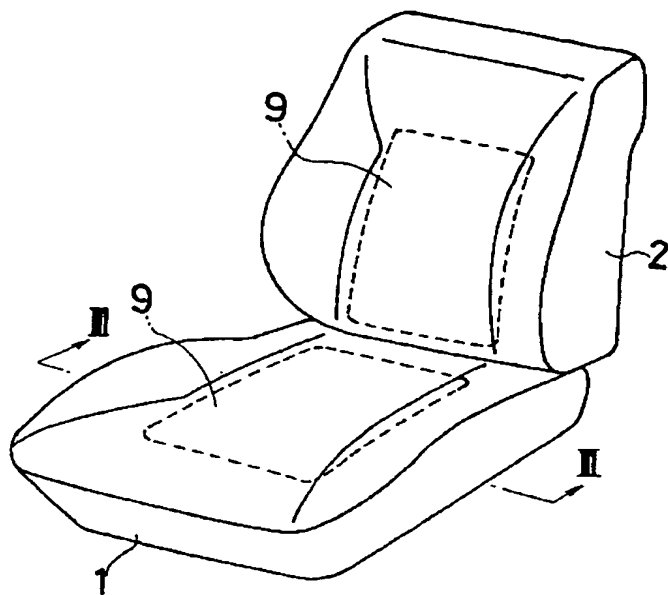


第1図は本考案のシートを示す斜視図、第2図は同シートの分解斜視図、第3図は第1図示のⅢ-Ⅲ断面図、第4図及び第5図は同シートに使用されるそれぞれ異なるヒーター部材を示す分解斜視図、第6図は同シートの裏面より見た斜視図、第7図は従来のシートの断面図である。

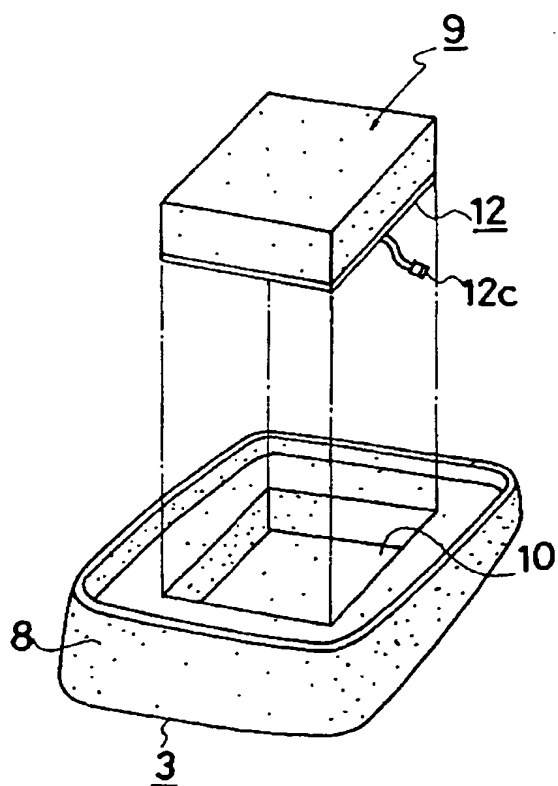
(1)・・・シートクッション、(2)・・・シートバック、(3)・・・クッション部材、(4)・・・表皮部材、(6)・・・フレーム、(8)・・・クッション部材本体、(9)・・・ヒーター部材、(10)・・・凹部、(11)・・・発泡体製部材、(12)・・・ヒーターユニット、(13)・・・ボス、(14)・・・ボス孔、(15)・・・接着剤又は両面粘着テープ。

実用新案登録出願人 株式会社 タチエス

第1図



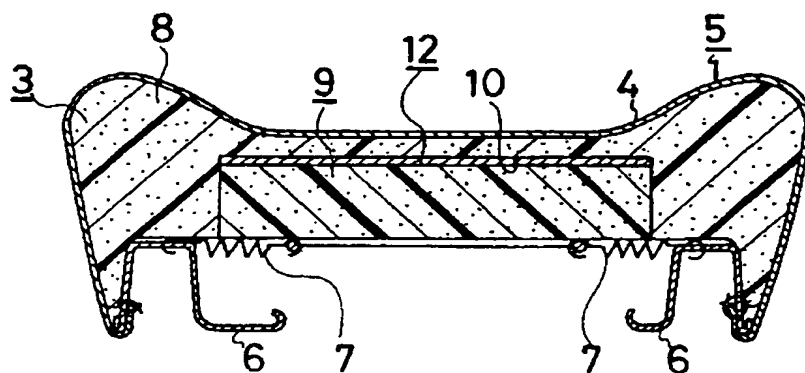
第2図



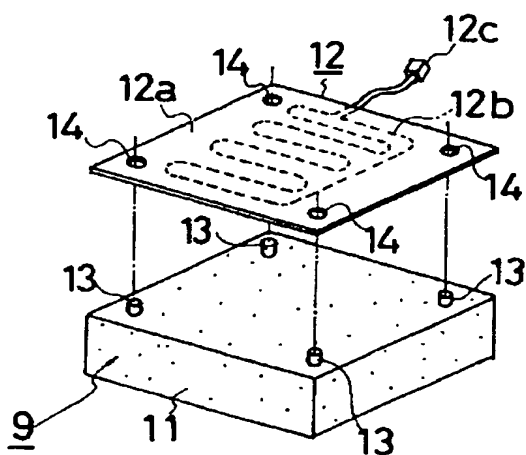
591

出願人 株式会社 タチエス
実開 63-99557

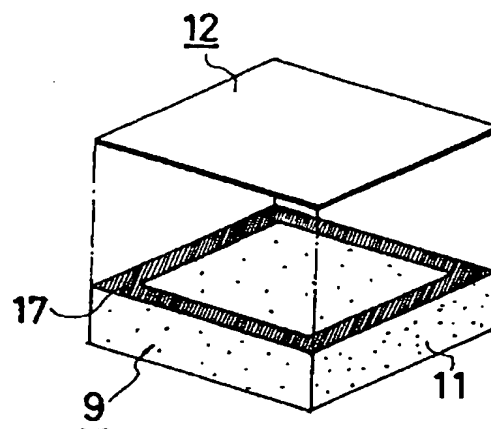
第3図



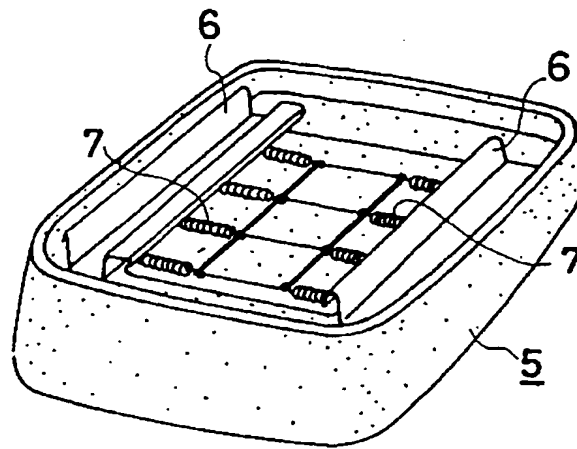
第4図



第5図



第 6 図



第 7 図

